

Sustainable Report No.083

衣服の寿命を延ばす 「水平リサイクル」

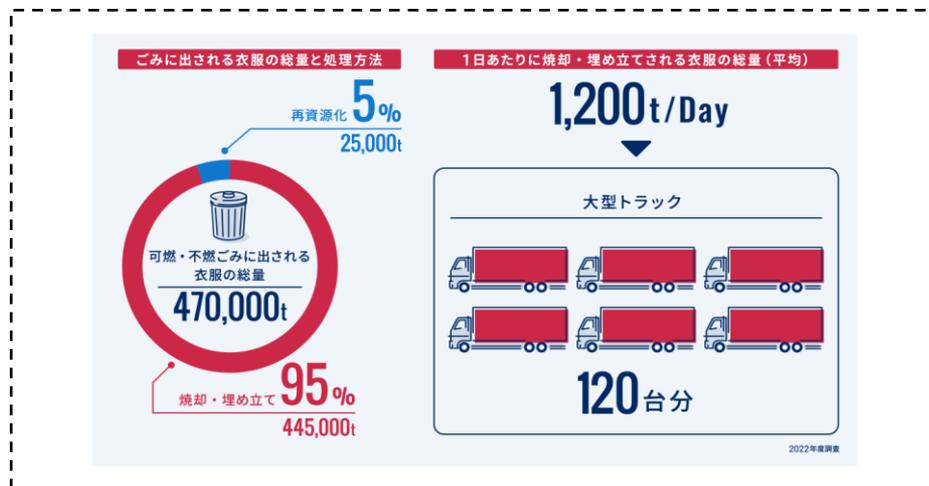


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 国内の衣服は2022年に**年間47万tが可燃ごみや不燃ごみとして廃棄**され、そのうち95%にあたる44万5千tが焼却・埋め立てされた。
- 2008年頃にファストファッションが普及し、**衣服は手に取りやすい金額で大量に販売**されるようになり、衣服のライフサイクルの短期化が進んでいる。
- 衣服1着につき、**製造時に25.5kgのCO2排出と2,300Lの水使用、焼却時に0.5kgのCO2排出**があり、地球温暖化の助長や資源の大量消費による環境負荷に繋がっている。

■ ごみに出される衣服の総量と処理方法



■ 生産時における産業全体の環境負荷



出典：左右ともに環境省

▶NEXT：ファクトリエによる Cotton の水平リサイクル

■ 実行者 / 解決方法 / 残る課題

- ライフスタイルアクセント株式会社が2012年に設立したアパレルブランド「ファクトリエ」は、中間業者を介さず**工場と直接連携するメイドインジャパン**で商品づくりを進める。
- 2020年に日本初の Cotton の水平リサイクルを開始し、消費者から同ブランドのオーガニック Cotton 100%のTシャツを店舗回収し、国内の提携工場です糸に戻して**新たなTシャツを製造・販売**する。
- 自社で販売しているTシャツのみならず、**リサイクルできる対象商品が増えることが期待**される。

■ 着なくなったら糸になるサステナブルTシャツ



出典：左右ともにファクトリエ

■ 「水平サイクル」のステップ

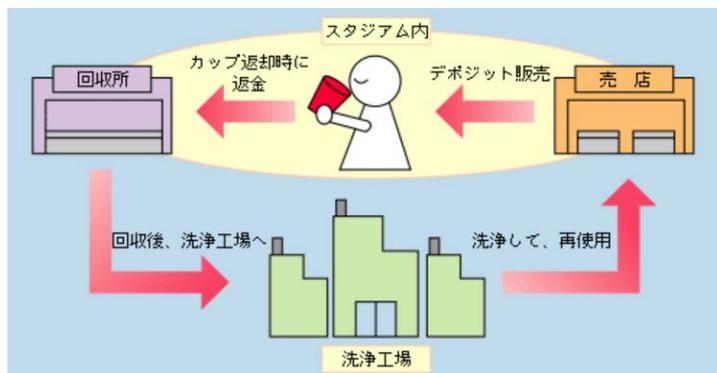


▶ NEXT : 水平リサイクルできる製品を増やすために

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- 複数製品の水平リサイクルを行う場合は、**素材によって工程が異なるため効率が悪くなり**、質を保つことが難しくなるのではないかと。
- 衣服が**複数種類あっても効率の良いリサイクルが仕組み化**され、水平リサイクルを取り入れる企業が増えることが理想である。
- **製造段階からリサイクルしやすい素材やデザインを意識**することが望まれる。さらに使用後に店舗に持ち込むとリサイクルされた衣服と交換できる仕組みを作ることによって、リサイクル促進が期待できる。

■ リユースカップの流れ



購入時に払った費用が回収時に返金される「デポジット制度」が、アパレル業界でも取り入れることでリサイクルが促進されるのではないかと。

図：環境省／文：筆者作成

■ 品質を落とさないための手作業



余計な糸や綿などを落とし、紡績しやすくする作業

出典：ファクトリエ

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 環境省, 「SUSTAINABLE FASHION」, 2023年10月20日参照 (https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)
- ライフスタイルアクセント株式会社, 「Factelier(ファクトリエ)」, 2023年2月8日参照 (<https://factelier.com/>)
- ライフスタイルアクセント株式会社, 「着なくなったら糸になるサステナブルなTシャツ」 2023年2月17日参照 (<https://factelier.com/products/15232/>)
- 環境省, 「平成16年版 循環白書テスト版」, 2023年2月17日参照 (<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/junkan/h16/junkan0102.html>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。